

# 森(モリ)・盛(モリ)・オホーツク



No, 10 平成27年11月26日

林野庁 北海道森林管理局

常呂川森林ふれあい推進センター

## 針広混交林はどんな森林？ (自然再生企画運営協議会)

11月5日(木)、平成27年度第1回自然再生モデル事業企画運営協議会を開催しました。

今回は、「針広混交林の見本があった方がよい」との前回協議会の議論経過を受け、常呂川FCが探した森林をベースに、目標とする針広混交林とはどのような森林なのかをテーマに現地検討を行いました。



議論の中では、「目指す針広混交林は、これですと示すことは難しい」との結論で、標準地の面積をどの程度にするのかや一般の人に対する説明の仕方などさらなる検討が必要です。



その他課題として、NPO団体が解散したことで構成団体の減少があり、新たな団体の補充などを検討することとなりました。

また、もう一つのテーマであるオホーツクの森に人を呼び込むための見所探しについて、せっかく知床連山を眺めることもできる展望台

が、周囲の樹木が育ち、肝心の景観が良くない問題です。

保安林という制約がある中、景観を確保するため、どのような方法があるのかなど課題解決に向けて知恵を出すこととなりました。



# 野幌森林公園でクラフト作り！

10月18日（日）、北海道、道民森づくりネットワーク実行委員会、北海道林業・木材産業対策協議会、北海道森林管理局などの主催により、野幌森林公園で行われた森づくりフェスタ 2015「道民の森づくりネットワークの集い」に参加しました。

森林管理局は〈森づくりエリア〉担当として、カミネコン植樹を中心に森林散策ガイド、パネル展示などを行い、常呂川 FC はパネル展示と合わせてカラマツのまつボックリ・皮を活用したクラフト作成を行いました。

当日は、雨の心配される怪しい空模様でしたが、一時的にパラパラという程度で何とか終了時間を迎えることができました。

他のエリア（森のテント村）では、約1800人が集まったようですが、森づくりエリアまで足を伸ばしたのは相当少なく思われました。

それでも、当ブースにはほぼ休み無く来客があり、適度な忙しさ…実行委員会の呼びかけで酪農学園大学から2名のお手伝いもあり、クラフト作りをした皆さんは大喜びでした。



## ふれあいセンター等事業検討会 目的を忘れることなく…

11月10・11日、釧路市を中心に行われたふれあいセンター等事業検討会に2名が参加しました。

これは、各ふれあいセンター等が取り組んでいる事業の情報交換・フィールド見学により知見を広め、各センター等の課題等を検討し、今後の事業に活用することを目的に平成24年度から各センター持ち回りで行われているもので、今年度は釧路湿原 FC の担当でした。

初日は、標茶町の国有林（雷別地区）の高齢級トドマツ人工林の枯死により、ミヤコザサに覆われた林地の自然再生活動の現状をもとにディスカッションしました。

二日目は、根釧西部森林管理署の会議室で各センターの取り組みを報告した後、課題・方向性について、局調査官、指導普及課長を交えて意見交換しました。

ややもすると、今までの流れと目先の行事に追われてしまいがちですが、常に中・長期的視点と目的を確認する必要を実感しました。

北海道森林管理局 常呂川森林ふれあい推進センター

090-8588 北海道北見市北斗町3丁目11-3

TEL 0157-23-2960 FAX 0157-26-2144

[http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/tokorogawa\\_fc/](http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/tokorogawa_fc/)